

総務教育 常任委員会

視察研修を実施しました

総務教育常任委員会は昨年11月、愛媛県松山市と
愛南町の視察研修を行いました。

視察の内容は「持続可能な開発目標（SDGs）の
取り組み」「ふるさと応援寄付金」「防災」の3点です。



愛南町×SDGs 廃棄する野菜や果物でウニを蓄養



ウニが蓄養されているいかだ



ウニの餌は廃棄されるブロッコリーと
愛南ゴールド（河内晩柑）

水産業が盛んな愛南町ではきれいな海を保つため、
環境に配慮した様々なSDGs事業を実施していま
す。海洋プラスチックごみ対策など6つのプロジェ
クトを推進しています。

その1つに「愛南町海の森ブルーカーボンプロジェ
クト」があります。藻場の造成や再生、養殖事業を実
施するものです。磯焼けや赤潮、海水温の上昇など、
海には様々な問題があります。愛南町でも、磯焼け
が課題でした。そこで磯焼けの原因であるウニ（ガン
カゼ）を駆除し藻場再生に取り組みました。駆除した
ガンカゼは、いけすで籠に入れ蓄養し販売します。
与える餌は、特産品のブロッコリーと愛南ゴールド
（河内晩柑）。廃棄される茎や葉、落果を使用してい
ます。低コストで実施でき、環境面も考えられ、ウニ
も餌も無駄にしない取り組みを見ることができまし
た。また、ガンカゼを捕獲し蓄養したことで、藻場が
再生したところもあるとのことでした。

本町でも海の恩恵を受け生活しています。きれい
な山田の海を、次の世代につないでいくような取り
組みを実施していかなくてはなりません。今後も委
員会では、水産だけでなく環境など多岐にわたる分
野におけるSDGs事業の推進について、引き続
き調査していきます。



籠の中でウニが餌を食べる様子



ウニッコリーという名で製品化されている